

フィリア・レター

～真の友人からの手紙～

発行所:中部労災病院

〒455-8530

名古屋市港区港明1-10-6

TEL 052-652-5511

FAX 052-653-3533

<http://www.chubuh.rofuku.go.jp/>



訴えにすなおに耳を傾けたい

中部労災病院 院長 堀田 鏡

“新年あけまして
おめでとうございます”

今年は“酉”の年、とりがはばたく如く、皆さんにとっても当院にとっても、飛躍の年になることを願うものです。当中部労災病院は、本年秋には9階建ての新病院が完成し、稼動し始めます。新病院には、新しい診療機器も入り、医師をはじめとしたスタッフ一同、診療にも一層熱が入ります。患者さんにとっても、新築された病院に通うことが、心に安らぎを与える環境になる様になればと、職員一同が今から心をくだく日々です。

“直接に病人の苦楽に関係する問題は家庭の問題である。介抱の問題である”とは、明治の俳人で、脊椎カリエスで自宅での病床生活を余儀なくされた正岡子規の著書「病牀六尺」にみる言葉です。意味するところは、“病で苦しくなった時、衰弱が激しく、心細くなった時、看護の如何が病人の苦楽

に及ぼす影響は大きい。殊に、物淋しく心細い時には、傍の者が上手に看護して呉れば、病苦など忘れてしまうものである。しかし、その看護の任にあたる者、即ち家族の看護が下手だと、腹立たしく、病苦が一層つのるものである”と述べています。翻って、入院されている場合には家族もさることながら、看護師をはじめとした医療スタッフの対応が問題です。

我々医療に携わる者皆が、この子規の言葉を胸に、患者さんの苦痛を少しでも和らげるように努力している日々です。とりわけ、今年は“とり”の年、屋根上の風見鶏が風向きに敏感に反応する如く、患者さんの訴えにすなおに耳を傾け、思いを早く察知し、適切に素早く対応出来ることをモットーに、職員一同頑張りたいと思います。今年も我々と皆さんが一緒になって、素晴らしい病院にしたいと、よろしく願いいたします。

今月号のお知らせ

- ① 訴えにすなおに耳を傾けたい
..... 堀田院長
- ② 医師のページ
大腸癌が増えています。
..... 村瀬部長

- ③ 看護師のページ
手術室災害訓練
- ④ 睡眠時無呼吸症候群をご存知ですか
- ⑤ 病院調理師の仕事
- ⑥ ボランティアのページ